広報 横芝

この広報は各家庭に洩れなく配付します。
発行所・千葉県山武郡横芝町役場（電話）横芝 32・249・339

9月は	固定資産税	第3期
	国民健康保険税	第4期
	有線放送電話使用料	第3期
10月は	町県民税	第3期
	国民健康保険税	第5期
11月は	固定資産税	第4期
	国民健康保険税	第6期
	有線放送電話使用料	第4期

の納期です

有線が公社線と繋がりました

接続局は 四七局

本紙前回号で御案内申し上げてあります有線放送電話は九月十日から公社線と接続通話を開始いたしております。

通話時間は午前六時三十分から午後九時までで、午後九時から翌朝の午前六時三十分までと、一斉放送中は緊急を要するもの（人命及火災等に関すること、及び医師、獣医師、警察等の連絡）以外は接続できません。

それから前回号で電報電話局の内示で市川、船橋、鴨川等が接続不能とおしらせしてありましたが、其後再び、「既得権として認める」旨連絡がありました。結果としまして次の局が接続局として指定されました。野手、旭、元干潟多古、日吉、干潟、成田、四街道、佐倉、野呂、川上、八街、馬渡、誉田、船橋、市川五井、木更津、柏、佐原、大原、鴨川、勝浦、山田台、白里、豊海、土気、鳴浜、大網九十九里、緑海、成東、茂原日向、野尻、諸持、海上、飯岡、芝山、木戸、千代田、蓮沼、松尾、八日市場、千葉東金、銚子、以上四七局。

尚、横芝有線の交換台には三八〇番から三八三番までの四本の代表電話が入りますので呼出の場合は、有放横芝三八〇番或いは有放横芝三八二番と呼んでいただくと有線の交換台が出ますので、今度は有線番号を申し込んで下さればよろしい訳です（町内同志が話し中の場合、局外からは通話申込みがあると一時通話を中止していただいて接続します。）から知人親類等の方にはあらかじめ御れんらく置き願いたいと思います。これから公社線が繋がりますと、回線内のマナーが大変大事になってまいります。

例えば、酒に酔った人が、訳の分らない言葉を並べたり交換職員にからんで回線を独占する場合、又偽りの緊急申込みや、徒らの長話は、その回線全部の迷惑になりますので、有線所有者の方々がお互いに厳重に御注意をおねがいいたしたいと思います。

農地国債の償還始まる

＜請求書は早目に＞

農地被買収者給付金請求書の受付期限は四十二年三月三十一日迄です。

期限後は理由の如何を問わず請求できません。現在までに約八〇％が請求済となっておりますが未請求の約一割は団体、法人、共有、或は遺族等が複雑なものが多い様です。この様な場合請求書の添付書類等の準備に相当の日数を要しますので期限切れにならない様早目に準備して提出して下さい。

請求書用紙は役場産業課に用意してあります。

＝学校だより＝

横芝小のプール完成

上小の体育館も

給食センターは十月完成

○本紙二八号及二九号で紹介したが横芝小のプール及上堺小の体育館は共に完成して、子供達の歓声を受けている。特に地質の関係から、「夏休みまでに間に合うのかしら？」と心配されていたプールは休みに入ると間もなく完成し某大学から有名選手を招いてフール開きを行なった。

○横芝中学校をはじめ町立小中学校全校生徒の昼食を賄う給食センターは現在の中学校裏に当る横芝町横芝四〇八番地地先に鉄骨三〇三八〇平方米の本屋と、一七五〇平方米計三二、一三〇平方米（九七坪）、請負業者は吉岡建材で工事を進めている。

建設備々品物　六千九百万円
敷地整地　六千壱百万円
総計　八百九十六万円

壱千参百八十九万六千円で完成は十月二十日の予定。

○横芝中学校体育クラブは教師、生徒一つになって目覚ましい活躍を続けている。今年の夏期大会では山武郡を制覇し県大会に遠征した。結果成績次の通り。

野球部（市営球場）一回戦　一対〇で惜敗
庭球部（県営、千葉高）
女子団体　三位
体操部（県体育館）
男子団体　七位
卓球部（県体育館）
男子個人　四位
剣道部（県武道館）
個人　三回戦まで出場

○郡下で初の職業適性検査を実施。

中学校では、六月に職安検定官を招いて三年生全員の適性検査を実施した。

知能指数の調査でなく、個人毎の技能的指数を調査するもので、これからの進学や就職の指針としての指導教育の一環としたもので、父兄の間にも「是非来年も」と極めて好評であった。

（完成したプール）

（技能検査を受ける生徒）

総合開発計画を討議し成田空港の騒音問題も研究

横芝町議会は、去る八月二十九日午後二時から議場で全体協議会を開催し、旧栗山飛行場跡の用地を買収して工場其他文化施設の誘致等を討議し、更に県航空調査室からは鈴木副主査、公団成田分室からは小川室長を招いて、成田空港設置に伴なう横芝地区の騒音及び汚排水の影響等について事情を聴取して研究を行なった。

（尚、「九月の定例会には事前記保官が来庁されたい」旨藤城議員等から希望があり、「所定の手続きによる要請があれば時間の許す限りは御希望に添いたい」と回答があった。）

議会だより

交通事故の示談は役場に連絡してから

（国保利用の場合）

走る凶器－自動車等の交通事故の悲惨は言語に絶するものがあります。

しかし、突然い手続きが遅れているが、加害者にはこれを立替えて支払う能力がない時には「止む得ない場合の取扱」として国民健康保険が加害者に代って医療費の支払いをすることができます。

さて、それでは国民健康保険の加入者が自動車事故の被害者となった場合にはどうしたらよいのかということになります。

まず、医師の手当を受けることは勿論ですが、それと同時に役場の国民健康保険の係に連絡をして「取敢えず国民健康保険を利用する」旨を伝えて下さい。そうすれば加害者が自動車損害賠償責任保険によって支払うべき医療費を国民健康保険では医療費給付の対象にはなりません。それでは「どうしても国民健康保険は使用できないのか」といいますとそうでもありません。万一事故が発生しても自動車損害賠償責任保険の支払いは使用できないのかは、加害者に請求する訳であります。

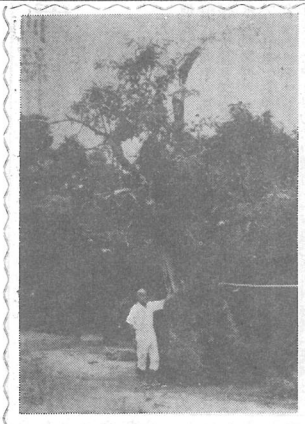
それから示談のことについてですが、示談の損害賠償には医療費ばかりでなく、生活費や物質面精神面の慰藉料まで含まれているので、その類面にのみ幻惑され「医療費は国民健康保険で」と自分でも考え、又加害者も、何となく言ったように持ちかけてくるので、何時か医療費抜きの示談を成立させてしまっているというケースが多いようです。

最近医療費の増額に伴ない皆さんの国民健康保険財政も深刻であります。特に交通事故による医療給付の額は相当なものでありますので、不法行為（交通違反事故、けんか泥酔）による傷病の取扱いは慎重に取扱い、国民健康保険を使用する場合には必らず役場国保窓口への連絡を忘れず。示談の一歩前に医療費についての相談をそれるようおねがいをいたします。

適正な、そして健全な国民健康保険の運営のため加入者各位の全面的な御協力をおねがいいたします。

◇ふる里の話題◇

樹木（五）サイカチの木



横芝町古川に鈴木昇さんという極めて信心深い人がある。特に仏に対する信仰は強く、古川の里を中心にして点在する仏像や、無縁仏の墓石等を自分の所有地に集めて祭祀を行ない、又荒れ果てた仏堂や地蔵尊等を毎月のように巡回して拭き掃除を行なう等、「只奇特な御仁」の評判をとっている。人呼んで、古川の地蔵様。

さて、此の鈴木さんの庭先に樹齢六百年（一説には一千年とも言われる。）を超えるというサイカチの木がある。

――昔、上総国武射郡古川村は二年も続いて旱魃と洪水に襲われ上納の年ぐ米に事欠き村人の何人かは江戸の牢送りを覚悟するか、薙旗を押し立てるか、どちらかを採らなければならない瀬戸際に追い詰められていた。名主平右エ門は八方手をつくして、年ぐ米

両総用水堤四十米決潰

泥海と化した長倉の水田四百アール　被害拡大を防いだ主婦の機転

八月八日午後四時頃、長倉地先の両総用水路約四十米が山腹の遊水の重圧で決潰した。丁度長生郡方面に送る用水が大総機場から二基のポンプで送水中のことなので、五米の山腹から落下する水勢は山裾の土砂と四〇米の堤防を押流して一〇〇アールの水田を土砂の下に埋め、一〇〇アールを泥海と化し、勢余った濁流は付近一帯の水田約六〇〇アールに溢れ、その惨状と凄まじさは目も当てられぬ有様で、急を聞いて馳せつけた人々はまるで悪夢を見ているように只茫然としていた。特に行交う人も立往生する程並べられた自動車と視察員や調査官の人波に囲まれた被害者の地元民が「何とかよい結果の回答を」とすがりつくような眼で関係者を見つめる様は、此のような事故が、いまだかつてなかった事件？で、「若し発見が後十分遅れたならば用水路は更に数十米欠潰し、その被害も数倍になったであろう」と県の係員も言っていたが、此の発見と機転の功労者は長倉一一〇四番地伊藤尚明さん妻とよ子さん（三〇）であるという。

とよ子さん談「四時一寸とまわっていましたが、庭に居ると堤の方で変な音がしたので見ると山裾の方が白く見えました。これは大変だと思って家の人を起こし、近所の人にも知らせましたが、何だか夢中でした。近所の方々の協力もあったので私の手柄ではありません。それより機場のスイッチを切ってくれた人の手柄ですよ。」

は、此のような事故だからあるだけに真剣そのものであった。

しかし、用水事務所は間髪を入れずポーリング車を乗り入れ、原因糺明にかかる、一方地元区長伊藤貫一氏等は災害対策委員会を結成して被害耕地の復旧と稲作の補償についての陳情等の活動を開始していたが、此の程、要求通りの補償が十月上旬には交付される旨県から通知があり、被害者を一まずほっとさせている。

用水路の復旧工事については、国庫負担により工費五〇〇〇万円を投じて高度の施行方式で明春までに完成する答である。

さて、此の大惨事発生は、暁の午前四時という時間なので、「海行かば」の英霊送葬曲時半に琉球政府を訪れ、まず労働局長にインタビューをした。人口九五万中労働人口は四六万此の中に農業従事者も含まれる、と説明を聞いた。

千葉県出身者は房総の塔に詣で厳粛な黙禱を捧げ、故郷の発展と平和を取戻した現況を報告した時、腕の時計は午後五時を示していた。

英霊眠ります塔を後にして車は今日の宿舎に向う。途中琉球大学が夕陽に染まっているのが窓近く印象的に眺められた。宿舎で東京からの汗をおとし、一息した時、ようやく帰着した現況を見ていたに在る自分の存在を覚えた。

翌日は予定も多く、午前八時に洞屈の前を立ち去りかねた我々の一行は、しばしの涙を拭い、やがてその洞窟を後に各府県の英霊を祀る塔に詣で

沖縄を視察して

関東甲信越昭和議員団代表　町議　八角喜久夫

「大体年間三千人位の希望者がいるが殆んどは女性で、その就職先は機織女工で就職先の衛生保健の状態は決して良〃日の丸〃の旗を贈り、分科会に分れてそれぞれの公共施設官公庁等を訪問することになった。私は、教育部門であったので、政庁から一寸と離れた開南小学校を訪れた。外観は内地の小学校の中程度のものであるのに、児童の数は極めて多く、一七四五名と聞いて、「内地にこんな窮屈な学校はあるまい」と思った。しかし、中には幼稚園もあって沖縄の政権返還に努力して

「内地に就職を希望する者の様子は？」との我々の質問に対する回答が返って来た。

欲しい」の一言につきたが、その切実な願いは私の胸に響いた。それから民主党代表に話の中で、「若い女工さんの説明では大体内地と校長さんの説明では大体内地より低い。只内地より困るのは給食費の一ケ月一弗二〇セント（邦貨換算四三八円）ということであった。PTA活動も校長さんの説明では大体内地より建つ米軍の宿舎である。山の中腹から、赤、青、黄、紫の要は、それぞれが、交通事故の悲惨さを認識し、正しい交通ルールの実践に努めることが主目的であります。皆様の御協力を切望いたします。

かなか内容は整っている様子で、給食費も一ケ月一弗二〇セントの安さに驚き、ただ、困るのは給食の費用の問題だけであるとの説明であった。

そうした中で、私達の心をとらえた情景は、附近に連なる軍基地は、さすが東洋一で、広い、と言っても想像だけではとても見当がつかない広さで、自動車、戦車、ガソリン用であろうドラム罐等、目の届く限りはそうした列と山であり、飛行場は又ゴマを散らしたように機首を並べた各種の軍用機、それが舞い立ち、舞い降りる様はさながら蜜蜂のような慌しさを見せている。

我々も又戦争の犠牲者集合地沖縄のイメージを追放すべく努力しなくてはならない」と心に誓ったのであった。

◎◎◎◎

税の相談日は毎月5の日です

「税のことについては、お気軽にどうぞ。毎月五の日には皆様をお待ちしています」これは、厳しい、怖いものと考えられている税務署のお役人からの誘い文です。利用された人々の話によると、「本当に親切で、こちらの話もよく聞いて、申告や、帳簿の指導までしてくれた。」と好評です。

自分には納得ができないで困ったり、不満を持っている人は、是非一度税の相談日の利用をおすすめいたします。

○日割は、毎月5の日（五日、十五日、二十五日）○時間は午前九時から午後四時頃まで。

○場所は、東金税務署（バスは京成車庫前、又は東金駅下車が便利です）

○秘密は絶対守られます。（個室面接になっています）

秋の交通安全運動要項決まる

期日は十月十一日から

目的　この運動は、人の命を大切にするため、歩行者を中心とした交通事故の絶滅を目標にして、総ての歩行者、運転者、運転者の雇主其他道路交通に関係ある者に交通安全事故防止の思想普及徹底を図り、交通環境の整備改善の促進を目的とする。

期間　十月十一日（火）から十月二十日（木）まで

主催　総理府、警察庁、法務省、文部省、厚生省、運輸省、労働省、建設省、自治省、都道府県、市町村、交通安全協会。

実施事項

ア　歩行者の安全な横断確保

イ　安全な踏切道通行の確保

ウ　自動二輪車、原動機付自転車及び自転車安全運転の確保

エ　自動車の適正な運行管理及び安全運転管理の確保

オ　車輌完全整備の励行

カ　道路交通環境の整備改善

キ　交通事故被害者に対する相談活動の積極化

以上のように決まりました

幹部と交通安全協会員とパトロールに出かける横芝警察官

上は今日も横芝出張所の交通取締隊下志津駐屯地を見学中の陸洋会員とその家族

陸洋会員、自営隊下志津駐屯地見学

横芝町陸洋会（会長　元海軍少将桜井得一氏）は、その家族等約一八〇名で七月二十五日、自衛隊下志津駐屯地を見学した。当日は同部隊から、人員輸送用のトラック六台が迎えため来町し、見学者はこれに便乗し、目的地に向い、特科大隊長大塚二等陸佐等の案内で隊内を見学、群長（陸将補元の少将相当）の講演等を聞き、隊員食で中食を済ませて、夕刻、再び、トラックに送られて帰町した。

と色彩を競い、それが緑の芝生に映えて美しく、此処だけは夢の国の感があり、その風景を囲む唐きび畑の中にある土にまみれてあくせくと働いているであろう同胞の姿を思いい、昨日見て来た戦場の跡を回顧した時、「一日も早く、沖縄の同胞が、正常に復し、日本人として立てるよう、日本政府は愛と熱意を傾けなくてはならない。

＜写真説明＞　パトロールに出かける横芝幹部派出所の警察官

千葉県職員募集

県では、来年四月採用予定の職員（高校卒程度）を次の通り募集します。

○試験区分及び採用予定人員

一般行政　男　約一五〇名
　　女　〃　五〇名
県立学校事務　〃　一〇名
農業　土木　〃　一〇名
林　業　〃　五名
水　産　〃　五名
建　築　〃　五名

○受験資格

昭和十六年四月二日から二十四年四月一日までに生れた（学歴は問わない）者

○試験

第一次試験　十月二十三日（日）教養、専門（択一式）

第二次試験　十一月下旬口述、適正、身体検査

○申込受付期間

九月十日から十月十一日まで、詳細については、県人事委員会事務局任用課（千葉市市場町二、電話千葉二二局六一一一の内線五七七）宛に問合せて下さい。

紙面の都合で統計記事と寸言欄を割愛させていただきました。（編集室）

▽故人の篤志

○横芝町横芝笹本医院院長笹本金次郎氏夫人故菊枝さんの御遺志

横芝小学校に壱万円
横芝中学校に壱万円
東町児童館に壱万円
福祉協議会に壱万円
計　四万円

○横芝町横芝桜井歯科医院院長故桜井陸治氏御遺志老人ホームに参万円他

衣類数点

それぞれ御遺族の方から関係者宛に御寄付をいただきました。茲に故人の御冥福をお祈りするとともに謹しんで御報告を申し上げます。

「これなら息子も一度は自衛隊の生活をさせて見たい」という母さん達、「娘の養子に自衛隊員を」というおやじさん。帰りのトラックの中は話の花に又花が咲いていた。

米作日本一に聞く

一〇アール当り一〇二四・五kg（約一七俵）の米を生産して三三年度の九一四・一kgという高水準の収穫を得ている。勿論その裏には昭和二六年にはじまって褐鉄鉱、客土、堆肥、深耕などを施して、いわゆる「土壌作り」の努力があったわけである。まず鉄成分を補うために褐鉄鉱と肥鉄土を昭和二六、三四、三七、三八年と数次にわたって投入し、二九、三〇年の二ケ年にわたっては山赤土（第三紀層頁岩風化土）三・八トンを客土した。また地力の増強を図るために、二七年までは一〇アール当り三・八トンのれんげをすき込んでおり、二八年以降は堆肥を一年おきに三・八トンを施して深耕した。特殊成分や微量要素の補給、また施肥の合理化と水管理もさることながら秘訣の第二点としては健苗の育生を重視している。昔から苗半作といわれているが、北原氏は苗八作であるという。

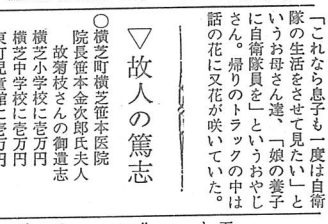
この健苗を作るためには陸苗代を採用しているが、その理由としては「発根力が大きいからである」としている。なおいっそう健苗効果を発揮させるために、田植二日後に初期生育を図ったという。

農業改良普及所では次のように話っています。

地力培養のために必要なのです。畑の土にもいろいろありますが、一粒ずつバラバラになっているものを「単粒構造」といいます。「砂土」は、これにあたります。また、いくつかの粒が集まってできているものを「団粒構造」といいますが、この「団粒構造」の土は軟かくて、保水力、排水力、保肥力などが大きく、作物の成育に最も適しています。

このような土の畑を「肥えた畑」といっておりますが、この団粒構造を保つには「腐植酸」というものが必要なのです。

しかしこの「腐植酸」は、やがて土中で分解したり流失したりして、普通一〇アールの畑から年間一〇〇キログラム位が消滅してゆくのです。ですから「肥えた畑」としておくためには、自然に消滅する分を補う必要があるわけです。ところで堆肥には土中で分解して、腐植酸をつくる働きがありますので、この上ない好都合な、貴重な農業資源です。そこで自然に消滅する腐植酸の一〇〇キログラムを補充するためには、約一トンの完熟堆肥が必要になります。単粒構造である砂土の畑では、年々これ以上の堆肥を施すことが大切だということになります。



北原氏は日本一の成果を挙げた圃場附近の一帯は標高六一〇m、アルプス風の吹きつける松本だいらにある。上高地に源を発する梓川の沖積土壌で湿水し、遊離鉄の溶脱が認められ、いわゆる弱老朽化水田である。作土とすき床層が灰白化した秋落田だが、北原氏の圃場の土性は上層は埴壌土であり下層に行くに従って粗粒質になっている。作土は斑鉄が少く下層に行くに従って各種の斑紋斑鉄が多くなっており、下層へ溶脱移行の様相がうかがえる。北原氏はこの圃場から過去九年間に亘って年平均八四四kgという高水準の収穫を得ている。勿論その裏には昭和二六年にはじまって褐鉄鉱、客土、堆肥、深耕などを施して、いわゆる「土壌作り」の努力があったわけである。まず鉄成分を補うために褐鉄鉱と肥鉄土を昭和二六、三四、三七、三八年と数次にわたって投入し、二九、三〇年の二ケ年にわたっては山赤土（第三紀層頁岩風化土）三・八トンを客土した。また地力の増強を図るために、二七年までは一〇アール当り三・八トンのれんげをすき込んでおり、二八年以降は堆肥を一年おきに三・八トンを施して深耕した。特殊成分や微量要素の補給、また施肥の合理化と水管理もさることながら秘訣の第二点としては健苗の育生を重視している。昔から苗半作といわれているが、北原氏は苗八作であるという。

この健苗を作るためには陸苗代を採用しているが、その理由としては「発根力が大きいからである」としている。なおいっそう健苗効果を発揮させるために、田植二日後に初期生育を図ったという。

農業改良普及所では次のように話っています。

地力培養のために必要なのです。畑の土にもいろいろありますが、一粒ずつバラバラになっているものを「単粒構造」といいます。「砂土」は、これにあたります。また、いくつかの粒が集まってできているものを「団粒構造」といいますが、この「団粒構造」の土は軟かくて、保水力、排水力、保肥力などが大きく、作物の成育に最も適しています。

このような土の畑を「肥えた畑」といっておりますが、この団粒構造を保つには「腐植酸」というものが必要なのです。

しかしこの「腐植酸」は、やがて土中で分解したり流失したりして、普通一〇アールの畑から年間一〇〇キログラム位が消滅してゆくのです。ですから「肥えた畑」としておくためには、自然に消滅する分を補う必要があるわけです。ところで堆肥には土中で分解して、腐植酸をつくる働きがありますので、この上ない好都合な、貴重な農業資源です。そこで自然に消滅する腐植酸の一〇〇キログラムを補充するためには、約一トンの完熟堆肥が必要になります。単粒構造である砂土の畑では、年々これ以上の堆肥を施すことが大切だということになります。